

第49回 発表会

10月9日(土)、第1部は、こあら組+3歳児。第2部は、4・5歳児で開催。猛暑や長雨が続いた夏の時期、クーラーの効く室内で、ゆったりと無理なく練習ができました。この時期の発表会が、よい選択であったと判断しています。これからは、涼しさを感じる園庭で、ちょっとだけ運動会へ向けての取り組みを始めます。

発表会開催の意義やマナー

保護者の皆様にも一考していただければと思います。園長としてメッセージを届けます。

発表会での子どもたちの姿、いかがだったでしょうか。皆、勇気をふりしぼり、参観者の期待に応えたいと舞台上に立っています。お稽古事教室の発表会ではありませんので、無理強いや鍛えるような練習はしていません。これ以上のレベルに鍛えることは当園の保育方針では無理です。それでも、練習の過程、衣装や小道具を製作した職員、舞台上立つ園児に、もっと盛大な拍手を送ってほしいと感ずきました。「参観者の拍手が子どもたちの未来力です！」

普段とは違う姿を、多くの大人から称賛してもらえ経験が、発表会という行事の意義のひとつだと思っているのですが・・・

下の写真は、アトムルームの掲示物です。よりよいデジタル活用を伝え始めて、約10年。この約束事を守り続けて、園児同士でも拍手を送り合い、大きな成長につなげています。子どもの成長を願う大人として、我が子だけではなく、どの子どもにも「拍手を送り称賛する」というのは、重要な参観マナーでは？！

一昨年は、自分のお子さんの出番が終わると席を立つという家族が多く、最後の年長児の出し物は、もっとも少ない参観者となり、残念に感じたことまで思い出さずしてました。

次年度からは、実施する以上、「盛大な拍手を送る」、「途中退席しない」を、感染症対策同様の参観者マナーとして、大人の皆様に要望しますと、月報でお伝えしておきます。



10月26日 秋の遠足

雲一つ見ることのない快晴の秋空、しかも、無風で適温という最高の天候に恵まれ、きりん組は中牧公園で、こあら組は保育園で、秋の一日を楽しみました。さらに、種子島から、園児のためにロケットを打ち上げてもらえるなど、貴重な思い出ができました。



工業団地に隣接している当園の周囲は、大型車の通行が多く、重大事故への不安から園外へ出るのは控えていましたが、今回、初めて、裏道を使って4・5歳児が、片道1kmに挑戦。



「もうしません！もうしません！」と言って逃げる園児たち、いったい何を自省しているのだろうか？と、おもしろく感じることでした。



新職員の福満千尋（ふくみつちひろ）先生の紹介
アメリカに1年間留学、英会話がバッチリです！以前、視察に来園され、当園で勤務したいという想いが大きくなったそうです。



兵庫県姫路市の日ノ本短大の大学院生とのオンライン交流
実践を重ね、日本保育学会への論文に仕上げる予定です。